

資料紹介 古瀬コレクション ～古瀬 義氏採集植物標本～

勝山輝男・高橋秀男 (学芸員)

このコーナーはこれまで新収資料の紹介でしたが、本号では少し趣を変えて息の長い資料収集を紹介します。当館には古瀬 義氏の採集された植物標本が16,882点収蔵されています。これは、当館の前身である神奈川県立博物館が開館した2年後の1969年(昭和44年)から、1回に100～500点ずつ継続して標本が入れられてきたものです。1996年(平成8年)4月、古瀬氏は84才で亡くなりました。20数年間にわたって少しずつ入れられてきた古瀬コレクションもこれ以上増加することはなくなりました。古瀬氏の冥福を祈りつつ、その標本について述べたいと思います。

1965年(昭和40年)頃、大井次三郎先生の紹介で古瀬氏が多数の標本を収蔵されていることを知り、購入を申し出て快諾を得たのが当館へ標本が入るきっかけでした。標本のラベルを作製するのに時間がかかるため、できあがると連絡があり、その都度、栃木市の自宅へ受取りに出かけました。

古瀬氏は戦前より日本各地を歩かれ、その採集標本は15万点を越し、日本一の植物採集家とされています。しかも、1点1点ていねいに植物を採集し、新聞紙を毎日取り替えて乾燥し、生育環境まで書き込まれたラベルを自分で書いて添付しています。標本のラベルを非常に重視し、採集者が自分でラベルを書かなければ標本の価値



写真2. アカイシロンドウのタイプ標本 (KPM-NA0043075).

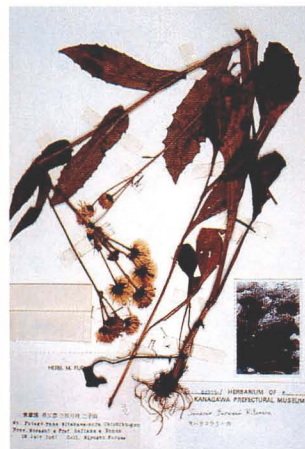


写真3. キバナコウリンカ (KPM-NA0053709).



写真4. コウシュンスゲ (KPM-NA0068483).

は半減すると言われ、自分の満足できる標本のみを他に渡されていました。

古瀬氏は1911年(明治44)年11月25日、飯田市に生まれ、県立飯田中学校を卒業後、慈恵医大予科、松本高等学校を中退し、1934年(昭和9年)～1935年(?)頃は共立女子薬学専門学校の助手として小泉秀雄のもとで標本の整理にあたられていたと言われます。その後、外国航路(イギリス)の船員となって海外に渡られ、ロンドンではキュー植物園に出入りして標本について学んだといわれます。戦後は東京都のバス運転手として働きながら、日本各地を採集してまわったそうです。

定年退職後は、北海道、小笠原、琉球などにさかんに植物調査を行い、多数の植物標本を作製されています。特に琉球では1973年から2年間ほど石垣島のおもと岳山麓に住みこみ、植物採集に明け暮れたといえます。このときに採集された標本からはコウシュンスゲやホウオウザンスゲなど多数の日本新産植物が見出されました。

古瀬氏の植物を見る目は鋭く、採集標本がもととなり新種として記載されたものには、キバナコウリンカ *Senecio furusei* Kitam. などがあります。当館に収められた標本の中にもアカイシロンドウ *Gentianopsis furusei* Hid.Takah. のタイプ標本(新種を記載

するために使われた学術上重要な標本)があります。

当館に標本は入りませんでした。古瀬氏自身の名前で発表された植物には、中国の陳博士との共著で記載したカイサカネラン *Archineottia japonica* M.Furuse があります。

古瀬氏の初期の採集標本は国立科学博物館や東京大学に入られています。しかし、最近ではイギリスのキュー植物園、スウェーデン、中国科学院植物研究所など海外に標本を送られ高い評価を得ていました。これら海外に送られた標本の副標本にあたるものが、当館に収められています。

古瀬コレクションの植物標本は当館所蔵の他の約15万点の植物標本とともに、植物を同定する際の比較標本として、神奈川県植物誌や日本の植物相解明のための基礎資料として利用されています。



写真1. 古瀬氏の自宅にて(右より古瀬氏、勝山、高橋)。

自然科学のつら
第3巻第4号(通巻第11号)
1997年11月15日発行
発行所 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250 神奈川県小田原市入生田499番地
Tel:0465-21-1515 Fax:0465-23-8846
発行人 濱田隆士
編集 佐藤武宏・鈴木智明
印刷所 フルサワ印刷株式会社

自然環境保護のため再生紙を使用しています